

2013年10月10日 全5頁

Indicators Update

8月機械受注

非製造業が良好な結果

経済調査部
エコノミスト 久後 翔太郎

[要約]

- 2013年8月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+5.4%と3ヶ月ぶりに増加し、市場コンセンサス（同+2.5%）を上回った。3ヶ月移動平均値で見ても、2ヶ月連続の増加となっており、機械受注は改善の動きが続いている。
- 需要者別に内訳を見ると、製造業は前月比+0.8%と4ヶ月連続の増加となった。「石油製品・石炭製品」が前月比+223.2%と大幅に増加した。ただし、大型受注による上振れであるため、やや割り引いてみる必要があるだろう。非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+6.2%と2ヶ月連続の増加となった。
- 外需は前月比+22.4%と2ヶ月連続の増加となった。貿易統計の一般機械輸出の動向を見ると、EU向けや中国向けで改善が続いていることなどから、今後も外需の増加が続く見込みである。
- 以上を総括すると、機械受注は、改善の動きが続いている。内閣府公表の7-9月期見通しでは、民需（除く船舶・電力）は前期比▲5.3%と2四半期ぶりの減少が見込まれているが、この数字は9月に前月比▲29.0%の減少となっても達成可能である。また、9月に前月比▲14.1%の減少となった場合でも、2四半期連続の増加となる。大和総研では、7-9月期の機械受注は2四半期連続の増加となる可能性が高いとみている。

図表1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2012年			2013年								
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
民需（船電を除く）	▲2.4	▲0.8	3.8	▲1.3	▲7.5	4.2	14.2	▲8.8	10.5	▲2.7	▲0.0	5.4
コンセンサス												2.5
DIR予想												0.5
製造業	▲3.0	▲2.7	1.8	1.0	▲10.0	4.9	13.3	▲7.3	3.8	2.4	4.8	0.8
非製造業（船電を除く）	0.8	2.7	6.4	▲7.8	▲4.5	0.3	14.3	▲6.0	25.4	▲17.5	0.0	6.2
外需	3.6	0.5	11.8	▲8.3	▲3.7	1.0	52.1	▲19.9	10.3	▲16.7	1.4	22.4

（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）内閣府統計、Bloombergより大和総研作成

8月の機械受注は3ヶ月ぶりの増加

2013年8月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+5.4%と3ヶ月ぶりに増加し、市場コンセンサス（同+2.5%）を上回った。3ヶ月移動平均値で見ても、2ヶ月連続の増加となっており、機械受注は改善の動きが続いている。

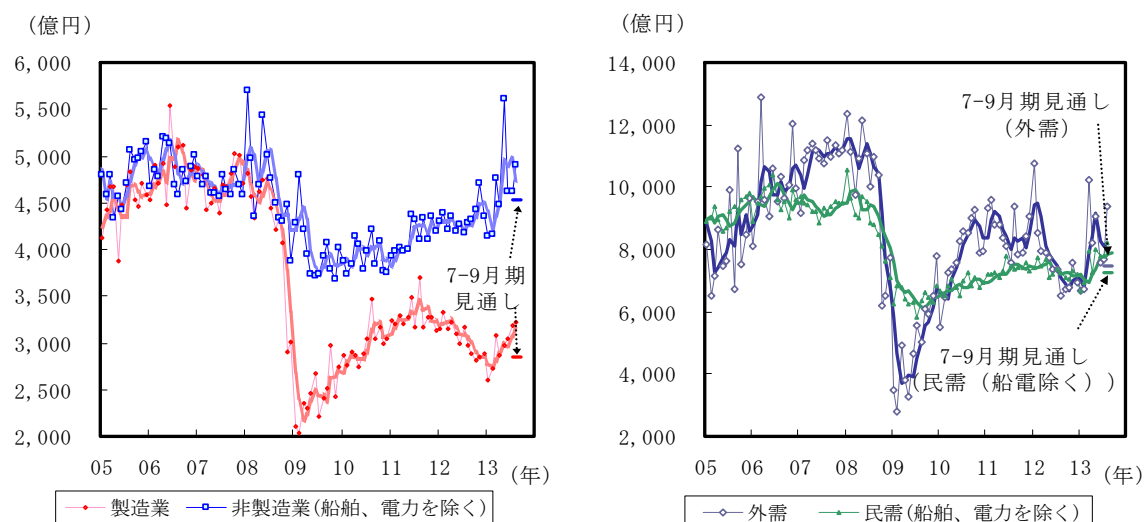
非製造業の増加が全体を押し上げ

需要者別に内訳を見ると、製造業は前月比+0.8%と4ヶ月連続の増加となった。素材系の業種を見ると、「石油製品・石炭製品」が前月比+223.2%と大幅に増加した。ただし、大型受注による上振れであるため、やや割り引いてみる必要があるだろう。「化学工業」では、前月比+31.0%と3ヶ月ぶりの増加となった。一方、中型案件の複数受注により前月大幅に増加した「パルプ・紙・紙加工品」や「非鉄金属」は、前月からの反動により減少に転じた。加工系の業種を見ると、「情報通信機械」が前月比+32.1%と増加に転じた。一方、「電気機械」は前月比▲5.7%となった。

非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+6.2%と2ヶ月連続の増加となった。「金融業・保険業」が前月比+55.7%、「運輸業・郵便業」が同+34.2%とそれぞれ3ヶ月ぶりに増加に転じたことが非製造業全体を押し上げた。一方、「情報サービス業」は前月比▲16.4%と2ヶ月ぶりの減少となった。

単月で見ると、非製造業での受注金額の増加が全体を押し上げる格好となったが、均して見ると、製造業・非製造業とも増加が続いている。

図表2：需要者別機械受注



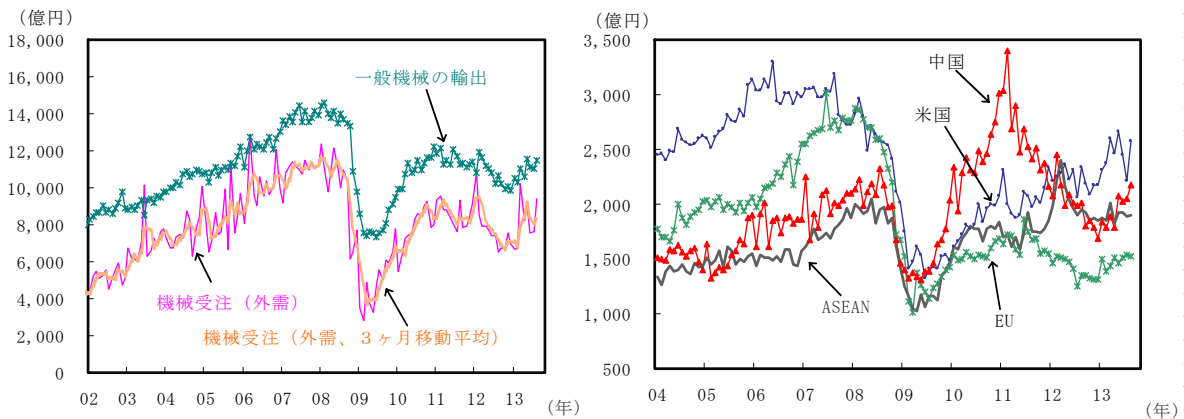
(注) 太線は3ヶ月移動平均線。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

外需は2ヶ月連続の増加

外需は前月比+22.4%と2ヶ月連続の増加となった。8月については大型案件の影響で大幅に増加した形だが、外需についても増加基調にある。貿易統計の一般機械輸出の動向を見ると、EU向けや

中国向けで改善が続いていることなどから、今後も外需の増加が続く見込みである。

図表 3： 一般機械の輸出と機械受注の外需 図表 4： 一般機械の輸出金額（主要国・地域）



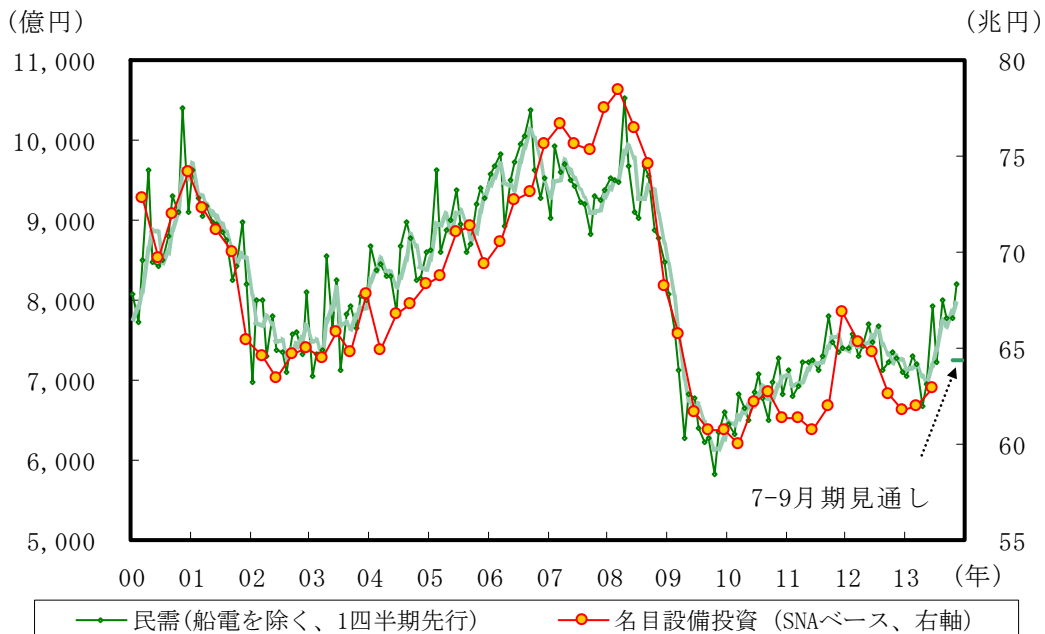
(注) 輸出金額の季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

7-9 月期の機械受注は 2 四半期連続の増加となる可能性が高い

以上を総括すると、機械受注は、改善の動きが続いている。内閣府公表の7-9 月期見通しでは、民需（除く船舶・電力）は前期比▲5.3%と 2 四半期ぶりの減少が見込まれているが、この数字は9 月に前月比▲29.0%の減少となっても達成可能である。また、9 月に前月比▲14.1%の減少となった場合でも、2 四半期連続の増加となる。大和総研では、7-9 月期の機械受注は 2 四半期連続の増加となる可能性が高いとみている。

民需（除く船舶・電力）は、GDP ベースの設備投資に対して、概ね 3 ヶ月程度先行するという関連性を考慮すると、設備投資は GDP ベースで見ても増加が続くことが予想される。

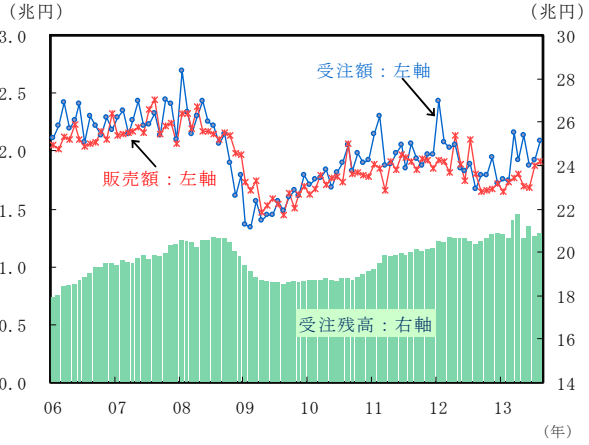
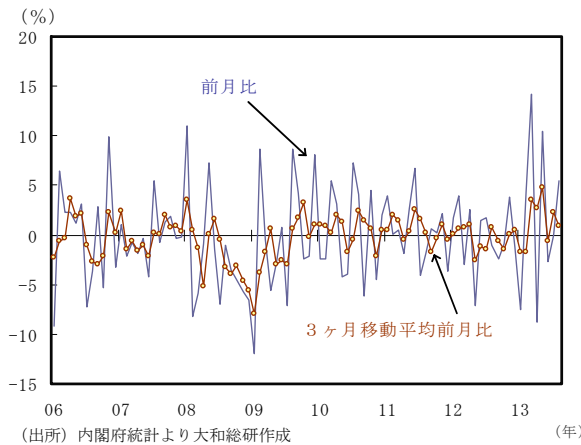
図表 5： 機械受注の民需と名目設備投資（季節調整値）



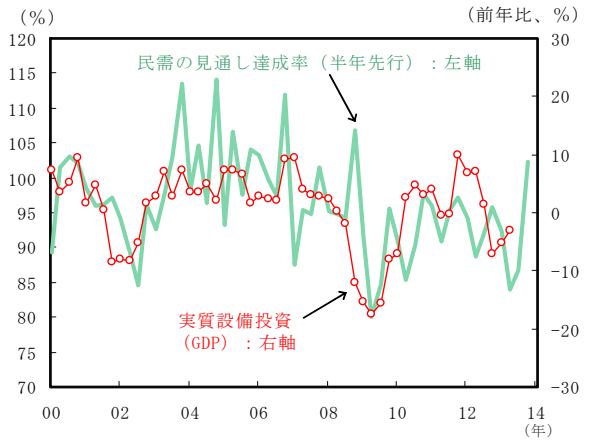
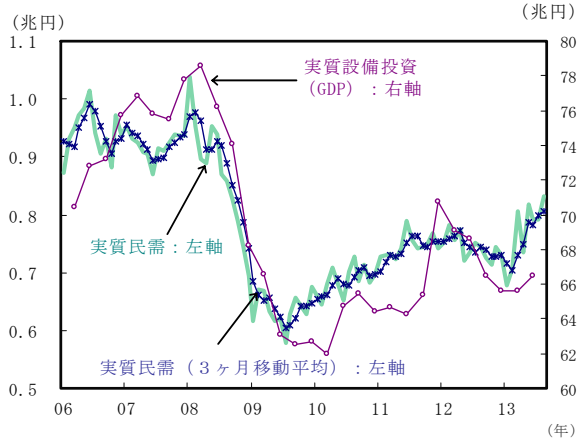
(注) 太線は3ヶ月移動平均線。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

概況

民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比） 船舶を除く合計（季節調整値）

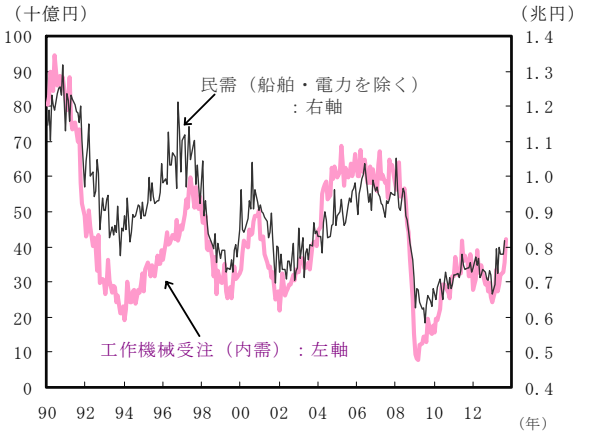
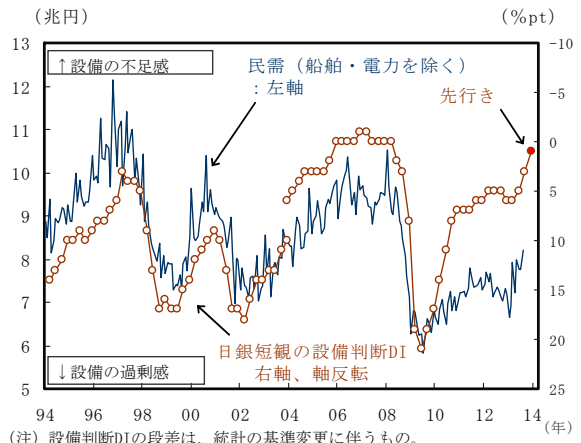


実質機械受注と実質設備投資（季節調整値） 民需（船舶・電力を除く）の達成率と実質設備投資



(注) 実質民需は、船舶・電力を除くベースで、企業物価指数（日本銀行）の国内資本財によって実質化。
 (出所) 内閣府、日本銀行統計より大和総研作成

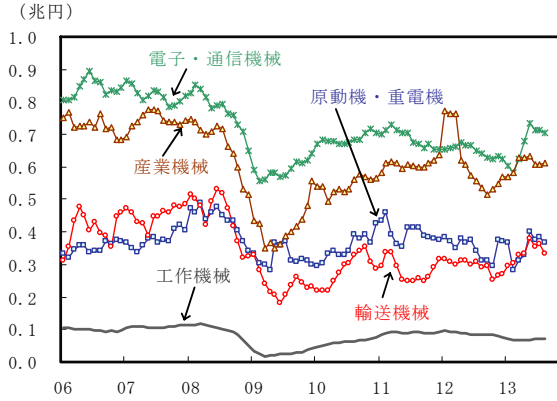
機械受注（季節調整値）と設備判断DI 機械受注と工作機械受注



(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。
 (出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

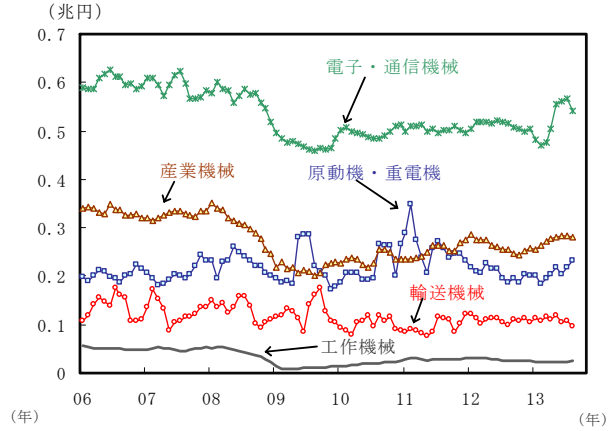
機種別と製造業・非製造業の動向

機種別・大分類の受注額（季節調整値）

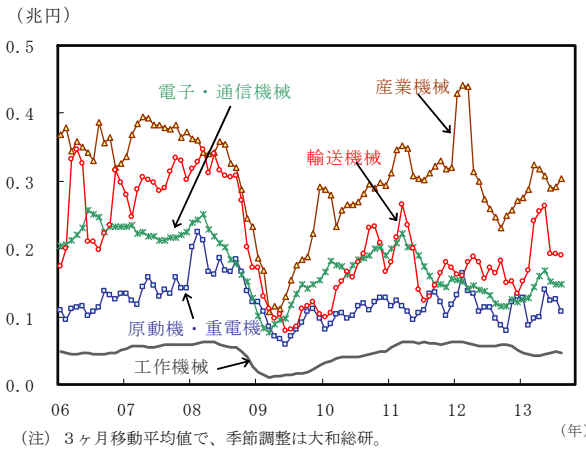


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）

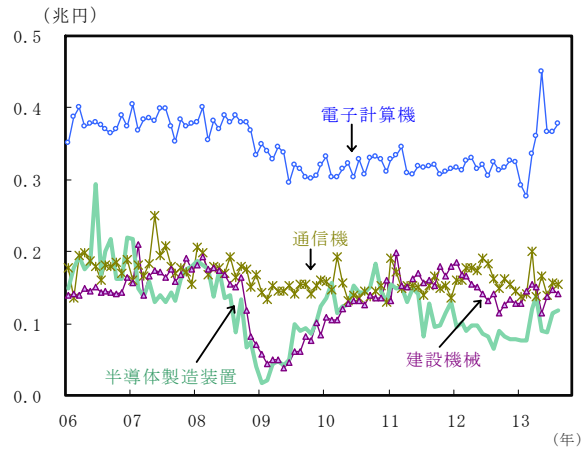


機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）

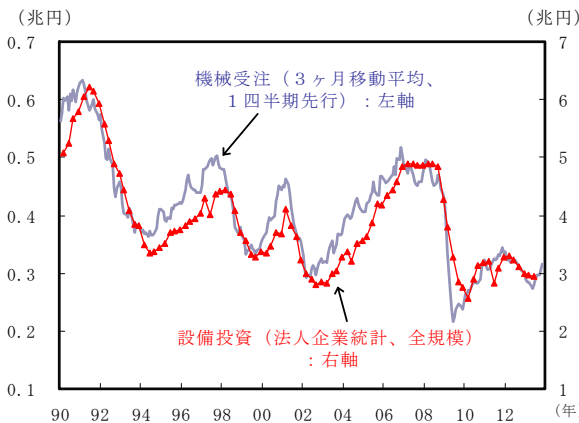


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）



機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）



(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

機械受注と設備投資【非製造業】（季節調整値）

